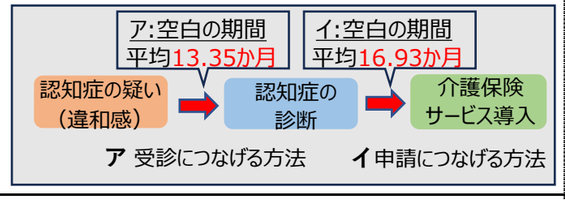
PDCAサイクルの設定（認知症への取組）

資料2

R8.11.2

目指すべき姿

認知症の人を支援する医療や介護の専門職の連携強化により、本人の尊厳が守られ、安心して生活できるようにする。

	課題 （ ）内は提案元	対応策 **P**lan 令和8年度の取組予定	実施 **D**o	評価指標 **C**heck	効果確認	改善 **A**ct
①	認知症の方が地域で暮らしていくため病院側の認識の差を感じる。（訪問看護） 在宅に帰るイメージがきちんと持てるように病院側も取り組んでくれているが、やはり相違が多い（MSWアンケート）	12月 MSW等地域連携会議の開催により多職種連携の強化を図り切れ目ない支援体制の構築	①②③⑧ ■10月3日(土) 多職種連携研修会 テーマ「看取り期の支援を考える」　参加者53名 講話及びグループワーク 講師：のへクリニック　院長　医師　三戸　順子　氏 聖路加国際大学 名誉教授　木村　登紀子　氏 ④ ■10月25日(日) 薬剤師とケアマネジャーの研修会 講師:田岡 且行氏「在宅医療・介護連携における薬剤師の役割」 グループワーク「ケアマネジャーと薬剤師の連係(携)プレー」 薬剤師とケアマネジャーの連携強化 ⑤⑥ ■11月10日(火) 認知症講演会 テーマ「認知症の本当のことをご存知ですか」 講師: 丹野　智文 氏 認知症本人「希望大使」　みやざ認知症応援大使 対面及び後日市公式YouTubeによる限定配信 ■11月1日 エーザイ（株）主催 市民公開講座 ⑤⑥⑦⑧ ■認知症サポーター養成講座の実施 ■ステップアップ講座の開催、やさしいお店事業所の拡大 ■サポーター交流会を開催によりサポーターの活動促進 ■認知症初期集中支援チームによる支援 ■本人ミーティング（仲間と話そう）の開催 ■認知症ピアサポート活動 ■認知症ガイドブック配架場所の拡大 ■認知症カフェの開始支援 ■認知症チェックリストの活用の推進	多職種研修アンケートより多職種連携体制がとれていると感じるものの割合増 ・研修の理解度と評価など （認知症講演会アンケート） 新しい認知症観の浸透など 認知症サポーター養成講座開催数、サポーター養成数 やさしいお店事業所の数 チームへの依頼者の傾向（認知症高齢者の日常生活自立度、障がい高齢者の日常生活自立度の高い方のチームへの依頼の増） 本人ミーティングの実施回数 認知症ピアサポート活動実績 認知症ガイドブックの配布 認知症カフェ開催数	多職種研修アンケートより （ ）はR7年度 ・多職種連携体制がとれていると感じるものの割合 ACP：92%（88%） 薬とケアマネ：68%（69%） ・研修アンケート（G.W「よかった」の割合） ACP：98%（82%） 薬とケアマネ：100%（100%） R７アンケートにて 新しい認知症観について学べた 56人 ■認知症サポーター養成講座開催数、サポーター養成数の増加 （R6年度24回、534人） R7年度27回 1,311人 ■認知症ステップアップ講座 （ R6年度１回　51人） R7年度２回　62人 ■やさしいお店事業所数 （ R6年：　44ヶ所） R7年　：52ヶ所 ■チームへの依頼 （R6年：24人 ） R7年：20人 Ⅱ以下:18人（11人） J以下: 11人（7人） ■本人ミーティング：12回 ■ピアサポ―タ―数 (R6：2名)　　R7：３名 ■ガイドブック配架窓口数 (R6：159ヶ所) R7：212ヶ所 ■認知症カフェ (R6：登録団体9件) R7：登録団体12件	
②	ケアマネは、認知症の方の意思決定支援の教育を十分に受けておらず家族の意向に引っ張られる。（介護支援専門員協議会）	10月3日(土) 多職種連携研修会				
③	医師の指示を理解記憶することが難しいので支援方法について迷うことが多い。（介護支援専門員協議会）					
④	薬の管理が行えないことがある。（介護支援専門員協議会） 薬剤師とケアマネの連携機会が少ない（R7専門職研修）	10月25日(日) 薬剤師とケアマネジャーの研修会				
⑤	新しい認知症観が住民に浸透しておらず、患者及び家族もマイナスイメージを持っている。（行政）	■11月10日(火) 認知症講演会 ■認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催 ■サポーター交流会の開催 ■エーザイ（株）主催 市民公開講座 ■やさしいお店事業所の拡大等				
⑥	認知症の疑いの時期から診断までの間の支援につながっていない「空白の期間」が平均1年１カ月、診断されて介護保険サービスなどにつながるまでの支援につながっていない「空白の期間」が平均1年5カ月とされている。（行政） 	■ア・イ　認知症本人ミーティング（仲間と話そう）の開催 ■認知症ピアサポート活動の実施 ■認知症チェックリストの活用 ■ア・イ　認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームによる支援	認知症地域支援推進員との連携			
⑦	高齢者サポートセンターへの相談は認知症の症状が進行しているケースが多い。認知症の疑いや、診断されて間もない時期での介入が課題（認知症地域支援推進員、高齢者サポートセンター）	■認知症チェックリストの活用　（再掲） ■認知症カフェ、ピアサポート活動の実施 ■認推の支援により認知症のある人の社会参加の促進				
⑧	チームが支援するケースは認知症初期の段階ではなく、生活がしづらくなってから介入することが多い。（認知症初期集中支援チーム）	■ア・イ　認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームによる支援				